

「この街」のために。「あなた」のために。

そっこう

®

S O U K O U



VOL 029

腎臓病の早期発見にはまず検尿

4月

Close-up 腎臓内科・泌尿器科病棟 看護師

Close-up 感染制御認定薬剤師

News&Topics

社会医療法人 壮幸会

行田総合病院

TEL : 048-552-1111

～検尿ファースト～

腎臓病の 早期発見にはまず検尿

腎臓内科／医長・佐藤貴彦



最近、大国の大統領が「自国ファースト」、大都市の首長が「都民ファースト」と力説しております。そこで私は腎臓病の早期発見に、「検尿ファースト」を唱えたいと思います。

我が国では3歳児健診に始まり、無料で検尿を受ける機会が保証されています。児童・生徒等は学校健診、職場では職場健診、その他の方は住民健診として検尿が行われています。これは検尿という簡単な検査で、様々な病気の糸口を発見できるからです。

しかし問題は検尿で異常を指摘された方が、その後のような対応をとられているのかです。この広報誌をお読みになっている方の中には、最近の検尿で異常を指摘された方、長年異常を指摘されつつも症状がないために放置している方がいらっしゃるのではないのでしょうか？だからこそ、この広報誌のタイトルが目留まったのでしょうか。しかし専門医を受診されて、「いつから検尿の異常を指摘されていますか？」と質問されると、勿論正確に記憶されている方もおられますが、大半の方はうろ覚えです。

何故でしょうか？それは、症状がほとんどないからです。また検尿異常の怖さを知らないからでしょう。ちなみに検尿異常（蛋白尿や血尿）が長期間持続している方の中には慢性糸球体腎炎という病気が隠れていることが多く、この病気が長期間持続すると慢性腎不全となり、最終的には透析療

法が必要になることもあります。また検尿（尿糖）で糖尿病が疑われて、精密検査にて糖尿病と診断されている方も多数おられます。糖尿病も初期には症状がないため放置されがちで、罹病期間が長くなると全身の動脈硬化が進行します。例えば、網膜症によって失明する方、神経障害によって手足のしびれや立ちくらみ、排尿障害などを呈する方、腎症によってむくみを呈しながら慢性腎不全となり最終的には透析療法が必要になる方などです。

近年、透析療法を必要とする患者さんは鈍化傾向ではあります。2015年末には32万人にも達してあります。透析を始める患者さんの平均年齢は69・2歳で、75歳以上の後期高齢者の患者さんの割合は39・5%にも達します。

もし蛋白尿や血尿の段階で、専門医を受診すれば、今後病状が進行する可能性が高い場合には腎生検（背中から腎臓に針を刺して、腎臓の組織を採取する検査）を施行し正確に診断し、治療方針を決定します。診断結果によって必要に応じた薬物療法を行い、透析療法を避ける、あるいは避けることは困難でも進行を遅らせる治療は可能です。糖尿病も同様で、合併症がでてから慌てても手遅れなことが多いです。

透析療法を必要とする慢性腎不全の原因は、以前は慢性糸球体腎炎がトップでしたが、約20年前頃から糖尿病性腎症がトップとなりました。慢性糸球体腎炎の患者さんが減少しているとはいえ、2015年には年間約

6000人の患者さんが慢性糸球体腎炎を原因として透析療法を始めております。残念なことに積極的な治療が困難である慢性腎不全あるいは透析療法が必要になる直前に紹介されてくる患者さんが、いまだに多数おられます。このような現状から、検尿異常は症状がなくても怖い病気の前兆と考えて、専門医を受診されることをお勧めします。もちろん現在かかりつけの先生がいらっしゃる患者さんは、よくかかりつけの先生と御相談してください。その上で、受診を希望される患者さんは、いつから検尿異常や腎機能低下があるかなどの情報が、診療に役立ちますので是非紹介状を書いていただき受診してください。

症状がないし、忙しいからと検尿異常を無視せず、是非専門医を受診されることをお勧めします。腎臓の病気を発見するには、まず検尿です。

「検尿ファースト！」

※(注)一部の腎臓病では検尿異常がみられないことがあります。





行田総合病院
感染制御認定薬剤師
宇野啓一
2007年入職

専門分野の知識を活かし、 最適な抗菌薬療法の提供を

平成27年11月より認定資格を取得し、感染制御認定薬剤師として働いています。認定資格を取得するためには、様々な講習会への参加や、症例報告、筆記試験等、多くの必須課題があり、簡単なものではありませんでした。また、認定資格取得後も、実践トレーニングとして、インフエクシオンコントロールドクターである竹内医師に毎日感染症治療のノウハウを教えていただきました。

現在は、病棟常駐薬剤師の業務を行いつつ、感染制御認定薬剤師の仕事もしています。抗MRSA薬の治療薬物モニタリングの実施や、抗菌薬が長期間投与されている患者さまを対象としたラウンドによって、抗菌薬の適正使用推進に努めています。また、医師だけでなく薬剤師からの相談もあり、病棟に出向いて、抗菌薬の選択や感染症治療の方向性、培養の見方等も含め、一緒にディスカッションしています。

病棟へ出向くことで、患者さまの現在の状態を直接診たり、電子カルテから収集できなかった情報を病棟スタッフから教えていただくことができます。

なかなか感染症治療が思っている方向に行かないことや、教科書では習わなかったことも多く、毎日四苦八苦していますが、日々勉強して、これからも良い抗菌薬療法の提案・提供ができるように励みたいと思っております。



フットワークを軽く! がモットーです。

行田総合病院
看護師
佐々木将幸
2012年入職

2階南病棟は入退院の回転が早いので、短時間で情報収集・患者さまとの人間関係を築けるよこ心掛けています。

泌尿器科は、尿管結石や前立腺肥大の方が多く、内視鏡の処置をして2〜3泊の短期入院で帰られる方が多いです。

腎臓内科の患者さまは、緊急が多いです。元々糖尿病の方が、むくみ・だるさなどの自覚症状を覚え、病院に運ばれてきたら腎機能の低下で緊急透析導入となったりします。佐藤先生が就任されてから、様々な症状の患者さまが増えました。私たちも専門的な知識を深める必要があると感じています。先生的的確な指示のもとに病棟のスタッフみんなが一つになって業務を遂行しています。

入院されると食事や生活に多くの制限がかかり、それが入院後の生活にも付いて回るようになります。そのことを理解してもらうために、厳しい指導をすることもありますが、キライでやっているわけではありませんので、気になることがあったらなんでも聞いてください。ご年配の方には男性の看護師はまだ珍しいようで、よく医師と間違えられてしまいます。そのたびに優しく訂正してしまいが…。(笑)。

「フットワークを軽く!」というのが、仕事をすすめる上でのモットーです。短い時間でも患者さまに信頼されるような看護師になりたいと思っています。

NEWS & TOPICS

2017.2-2017.3

加須・羽生 病診連携セミナー 北埼玉医師会メディカルセンター



2017年2月28日(火)

川嶋理事長と那須医師が講演

川嶋理事長が『行田総合病院の医療連携状況について』と題し、当院における各診療科医師の紹介や医療連携状況について当院の紹介患者の現状や救急の受け入れ体制について情報提供を行いました。その後、神山クリニック院長・神山医師が座長を務め、当院循環器内科医長・那須医師による特別講演『一見軽症、実は重症であった循環器疾患』へと続き、心電図による診断方法を多数のパターンで紹介するなど、内容の濃い講演となりました。加須市、羽生市を中心に多くの医療関係者にご参加いただきました。

疼痛疾患を考える会 ホテルガーデンパレス熊谷



2017年3月3日(金)

小島副院長が座長を務めました

自身による症例提示の後、座長を務め、獨協医科大学越谷病院整形外科准教授・飯田尚裕医師による特別講演『高齢者の脊椎疾患と骨粗鬆症-フレイルを防ぐ-』が行われました。

da Vinci 導入決定！ 泌尿器科

2017年4月

ダヴィンチとは？

da Vinci (ダヴィンチ) は最先端の手術支援ロボット。世界中で利用されている腹腔鏡手術を支援する内視鏡下手術支援ロボットです。埼玉県北部エリアにおいて、当院が初の導入となります。ロボット手術といってもロボットが自動的に動いて手術するわけではありません。医師がアームに取り付けられた鉗子やメスなどを操作して手術を行います。体への負担が少なく、鮮明な画像、精密な動きなど、低侵襲手術の新たなステージを提供していきます。

今号ではまず導入決定をお知らせ。来月号でその全貌と導入後の泌尿器科について特集を組んでお伝えいたします。ご期待ください。



第3回『肝臓病教室』開催決定！

～脂肪肝とサルコペニア～



太っていても栄養不良、やせていても脂肪肝？ いつもの通院では聞けない話が満載です！

2017年4月21日(金) 夕方5時30分～。新南棟 1Fにて。

毎回ご好評をいただいている当院主催による『肝臓病教室』。第3回の開催が決定しました。今回のテーマは『脂肪肝とサルコペニア』。消化器内科・橋本医師(写真右)を中心に臨床検査技師・薬剤師・管理栄養士・作業療法士による講座が行われます。参加申込も参加費もありません。当日開催時間に当院新南棟 1Fへお越しください。※当日はビデオカメラによる動画の撮影を行います。

COLUMN

ドクターやナース、コメディカルの日常、大げさにいえば人生観まで。
好評につき、毎号連載中！

数字が持つ力って？



経営情報課・統計係長
久保田昌宏

長身でハンサム。趣味はスキー。
病院内の数字に関することなら何でもおまかせ。

はじめまして、経営情報課統計係の久保田です。

ん？ 経営情報課？ 一体どんな部署なの？ と思いの方が多いと思います。私が所属している部署は直接患者さまとお会いすることがなく、病院内でもあまり知られていない部署です。そこで、どんな仕事をしているのだろうと思っている方に仕事の内容をご紹介しますと思います。

私たちの部署は経営判断・意思決定を行うための情報収集やデータ分析・会議資料の作成を行っています。いわば行田総合病院を数値化する仕事です。数値化する情報は入院された患者さまの人数や外来で診察を受けた人数。救急車で当院に搬送された人数。手術の件数や部門毎の収入などです。

「数字とはひとつだけでは意味をなさない複数あって意味がある」
例えば統計資料の中にある「4000」という数字。一つだけでは多いのか少ないのかわかりません。これに先月の数字や昨年同月の数字が加われば、先月より多かった少なかった。去年より多かった少なかった。と比較し判断することができます。数字を提供する時は必ず判断材料となる複数の数字をみせるように心がけています。

<数字の雑学>

数字には色々な法則があります。

突然ですが皆さんに数字のマジックをご提案しましょう。

次の連続した10個の数字の足し算、瞬時に計算できますか？

「 $1+2+3+4+5+6+7+8+9+10=●$ 」これは55ですね。覚えている方も多いと思います。

では次の問題です。「 $234+235+236+237+238+239+240+241+242+243=●$ 」

答えは2385です。

瞬時に計算できましたか？

連続した10個の数字の足し算を求める簡単な方法があるのです。

それは・・・5番目の数字の後ろに5を付けるだけです(238の後ろに5をつけて、2385となります)。

私たちが提供する数字は、病院内で利用する資料作成が大半を占めますが、広報誌『そうこう』やホームページ。病院年鑑に作成した資料の一部を掲載して皆さまへ情報をお届けしています。表やグラフをご覧になったとき、「あっ！」この部署が作っていると思っていたら幸いです。

2016年の病院年鑑ができあがりました。分厚い冊子には、行田総合病院の数字がぎっしり詰まっております。お手にした際には、ぜひ行田総合病院の数字を吟味して下さい。

これからもたくさんの情報を皆さまに発信させていただきます。

ADVERTISING

院内・院外からの広告を受付けております。

●検査科からのお知らせ

LOX-index 脳梗塞・心筋梗塞リスク検査を受けてみませんか？

●患者さまから多いご質問。

Q. どんな人が検査を受けるの？

A. 血縁家族に脳梗塞・心筋梗塞にかかった人がいらっしゃる方。高血圧、脂質異常症、糖尿病にかかっている、動脈硬化が気になる方。40歳以上の方におすすめています。

Q. 検査には時間がかかるのでは？

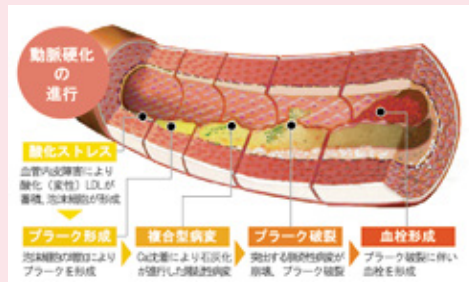
A. 検査方法は採血のみで約10分程度で終わります。検査結果データを解析し、2～3週間後に結果報告書が提供されます。

Q. 検査費用は？ A.12,960円（税込）です。

●LOX-indexは、血液検査です。

ロックス・インデックスは、動脈硬化の進行（下図参照）を調べ、将来の脳梗塞・心筋梗塞の発症までを予測できる新しい血液検査です。検査結果で脳梗塞・心筋梗塞のリスクが高ければ、生活習慣（喫煙、過食、過度の飲酒等）、ストレス、運動不足などを見直し、予防対策をとって早い段階からリスクを回避できます。

[行田総合病院検査科]



●地域医療連携室からのお知らせ

持ってて安心！『とねっと』をご存知ですか？



『とねっと』は、埼玉県利根医療圏医療推進協議会が管理・運営を行う医療機関間で診療情報を共有化する地域医療ネットワークシステムです。地域の皆さまが登録することによって、医療情報の共有、緊急時への対応、健康管理への活用にご利用できます。

●お申込みは簡単（無料）

参加同意書に必要事項を記入し、医事課窓口へご提出ください。

※詳しくは地域医療連携室まで。[埼玉県利根医療圏医療推進協議会]

●行田総合病院ホームページからのお知らせ

病院の紹介動画を随時更新しています。

昨年のホームページリニューアルから、病院の紹介動画を随時更新しています。スマホ・PCなどの端末でぜひご覧ください。

●病院紹介動画コンテンツ

救急センター紹介動画・内視鏡センター紹介動画
泌尿器科紹介動画・医師募集動画・研修医募集動画・看護師募集動画・
リハビリセラピスト募集動画

▶ <http://gyoda-hp.or.jp>



[社会医療法人 壮幸会 行田総合病院ホームページ]

[動画制作：BLESS]